

## 2016 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

渡 辺 隆 太 (愛媛大)

この度、JUA/EAU Resident Programme の一員として、2016年3月10日～15日ドイツのミュンヘンで開催された第31回欧州泌尿器科学会に参加する機会を頂きました。私にとって国際学会に参加することはかねてからの夢でしたので、学会誌でこのようなProgrammeがあることを知り、飛びつくように応募しました。当選通知が来たときには非常に興奮し、自己推薦状の熱意が届いたのだろうと確信しました。

田舎者の私ですので、出発前は果たして異国の地で5日間も生活できるのかと不安もありましたが、それは杞憂に終わりました。羽田空港で他のResident Programmeのメンバー（慶応義塾大学小林裕章先生、名古屋市立大学飯田啓太郎先生）と合流したときから、すぐに打ち解けることができたからです。おかげさまで学会会場へも迷うことなく到着することができました。

EAUのセッションは私にとって刺激的なものばかりでした。初日にはOpening Ceremonyが開催され、まるでテーマパークのような音響や演出に学会の壮大さを感じました。JUA/EAU joint sessionでは、日本と欧州のエキスパートの先生方が白熱した議論を繰り広げました。世界の第一線で活躍する日本の先生方の姿を見て、誇らしく思いました。Resident Dinnerという各国のレジデントが集まるパーティーにも招待いただきました。今年のResident DinnerはESRU 25周年記念を兼ねており、大挙したドイツ人レジデントに圧倒され戸惑いましたが、多くのレジデントと交流するよい機会となりました。ESU courseでは精巣腫瘍に関する講義を受講しましたが、日本の講義とは違いフロアから積極的に質問が出て話が展開していくという熱血講義で居眠りする余裕はありませんでした。Live Surgeryでは世界の第一人者によるRALPとRAPNを生で見ることができ、まるで実際に手術に立ち会っているようでした。

素晴らしいセッションの数々にわくわくしましたが、最も驚いたのは、世界の同世代の泌尿器科医がEAUの大舞台で発表し、第一線で活躍している姿を目の当たりにしたことです。中には、日本から来た私より若い先生方も立派に発表をされていました。次はきっと自分があの舞台に立つのだ、EAUに来るときは自分の力で発表しにこないといけない、という思いを強くしました。一朝一夕にはいきませんが、グローバルな視野を忘れずにまずは日々の診療から真剣に取り組んでいきたいと思えます。

Resident Programmeの小林先生・飯田先生の2人にはとても感謝しています。出発前は全く面識のない3人



ドイツ料理の名店にて（右：小林裕章先生，左：飯田啓太郎先生，中央：著者）



開催直前のOpening Ceremony会場

でしたが、会期中はセッションの内容や自分の専門について語り合ったり、プライベートの話やときには馬鹿なことを話したりしました。毎日互いのホテルの部屋で夜まで語り合い、飽きるほどワインやビールを食べ、絆を深めることができました。今後も良き友として、そして良きライバルとして交友を続けていける仲間ができたことは一番の収穫だったかもしれません。

この経験を今後の臨床や研究に活かしていこうと思います。そして、後輩にもこのプログラムを勧めたいと思います。今回、地方の一勤務医である私にこのような素晴らしい機会をいただき、颯川晋国際委員長をはじめとする日本泌尿器科学会の先生方、欧州泌尿器科学会、また推薦いただいた横山雅好教授に心より御礼申し上げます。